YWVOB会 会報 No.24

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

2003年8月23日発行

～ ２４号の目次 ～

・2004 年度 OB 総会のご案内……1
・第７回 OB 山行の報告（榛名山）……2
・第８回 OB 山行のお知らせ（乾徳山）……3
・苗名小屋屋根張替プロジェクトについて（募金御礼と進捗報告）……4
・Ｒ２００３のお知らせ……6
・期別便り（２３期、３３期）……7
・雲上のプロジェクトＸ……１０
・2004 年度会費納入のお願い……１１

■ ２００４年度ＯＢ総会のご案内

会長　嘉納　秀明　（1 期）
文責　総務委員長　笠原　正大（41 期）

拝啓　残暑の候、皆様にはますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、2004 年度の OB 総会につきまして、以下の通り開催日時・会場が決定いたしましたのでお知らせ申し上げます。

今年度の総会は、五八木荘ともゆかりの深い妙高高原の原田荘にて執り行われる運びとなりました。広い世代の部員たちとの交歓や、秋の深まりゆく高原の姿をお楽しみ頂くだけでなく、会員諸氏の尽力によって年々その佇まいを新たにする苗名小屋へと足をお運びになることにも、本総会は絶好の機会となります。会員の皆様には是非奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

本総会への出欠につきましては、同封の葉書にて 9 月 30 日までにご返信ください（なお、ご出席頂けない場合、総会の議決に関する委任の有無をご記入ください）。

最後になりましたが、残暑厳しき折、会員の皆様のご自愛のほどお祈り致します。

敬具

記

■ 日時：2003 年 11 月 8 日（土）14：00（13：30 より受付）～11 月 9 日（日）
■ 会場：原田荘（新潟県中頸城郡妙高高原町大字杉野沢 2590、TEL：0255-86-6016 ）
（五八木荘の近くです。）
■ 交通：JR 妙高高原駅よりバス 25 分
（最新のバス時刻表は　http://www.town.myokokogen.niigata.jp/　をご覧下さい）
■ 会費：10,000 円（当日宿泊費・夕食、翌日朝食代込）
■ 議題：2003 年度決算・事業報告、2004 年度予算計画、小屋委員会事業報告、現役活動報告ほか
■ お問い合わせ先：笠原（41 期、E-mail：kasahara@js6.so-net.ne.jp　Tel：090-4172-0032）

以上

■ 第7回OB山行報告（榛名山）

第7回OB山行幹事　安藤 貞利（11期）

第7回のOB山行（5月24日）はシニア月例山行と合同で催され、バスを使った榛名山を巡る山行でした。

2002年12月の氷雨の第6回OB山行、明神ヶ岳とは、うって変わって汗ばむ陽気でした。7時30分に一人の不参加者を除いて全員、新宿西口にそろい出発。途中関越道での渋滞もなく、10時前に榛名湖湖畔に到着しそこで車で来られた方たちと無事合流し、全員で写真撮影し出発となりました。湖畔から舗装道を登り、登山道に入ってから少し行くと新しい階段状の木道が急な坂道にも付いていて、石の階段と同じような登りにくい道でした。ここまで整備されると文句も言いたくなるというところ。氷室山での休みもなく天目山めざしひたすら登り、もうすぐ天目山の頂上というところで休み。

天目山から松之沢峠までは、防火帯の切り開きの気持ちの良い道が続き、40名がそれぞれのペースで歩いて山ツツジ、三ツ葉ツツジ、小梨の花を満喫でしていました。峠手前の分岐で丁度下から12時のチャイムが聞こえ、それぞれ好きなところで弁当を広げ昼食となりました。そこへ、時間を合わせて体調が悪い池原さんが峠から登って来て昼食に合流。食休みで昼寝もしたいところで、集合となり全員での記念写真。この時を待っていたかのように太陽が顔を出し、フラッシュなしでの写真撮影。

13：00出発し磨墨（するす）岩の奇岩を巻いたところで、ホトトギスが姿をみることができるぐらい近くで鳴いていました。沼の原からの登山道に出て、相馬山への石段の本格的な上りとなり、登りにうんざりしたところで、ヤセオネ峠への分岐。分岐で休まずそのまま登って行ったシニアの方もいて、元気なところを見せられました。

ここからは信仰の山らしく石柱があちこちにある中、いよいよ今日のハイライト、鉄梯子がある相馬岳への登り。途中で諦めようかと考えた人もいるぐらいきつい登りでしたが、全員無事頂上へたどり着きました。頂上からの眺望は、生憎良くなく山裾がようやく見える程度でした。頂上は40人が立ってやっといられるぐらいのスペースで、写真撮影もそこそこにしていま来た道を下りました。下りは問題の鉄梯子はあったものの、足取りも軽く、3時前にバスの待つヤセオネ峠に着きました。

帰りは、渋川・伊香保インター近くの空中温泉で汗を流し、帰途につきました。5月の行楽シーズンにもかかわらず、計画通り山行が出来ましたことは、計画立案者のおかげか、参加者の心がけが良かったのか、そのどちらとも言える十分満ち足りた山行でした。

【行程時間】

7：30新宿西口－バス－10：00榛名湖－11：00天目山－12：00松之沢峠手前13：00－14：00相馬岳－15：00ヤセオネ峠－15：30温泉16：30－19：00新宿西口

■ 第８回ＯＢ山行のお知らせ（乾徳山）

OB 山行委員長　小野恵美子（34 期）

３年前から実施している OB 山行も８回目となります。学生時代の想い出話や近況を語りながら山歩きを楽しみ、OB 会員の交流の場として盛り上がっています。より多くの方々にご参加いただきたいと思います。今回は日本 200 名山の乾徳山、原生林ありクサリ場ありの変化に富んだコースで高山植物・大展望が楽しめます。今年の夏の想い出に、奮ってご参加ください。

〔日程〕　2003 年 9 月 6 日（土）

〔行先〕　乾徳山（標高 2031m・日本 200 名山）

〔地図〕　昭文社山と高原地図「26 金峰山・甲武信」

〔集合〕　ＪＲ中央線塩山駅　　9：00

〔行程〕　塩山駅＝＝（タクシーまたはマイカー分乗）＝＝大平牧場―大平―扇平―乾徳山―扇平―国師が原―大平―大平牧場＝＝塩山駅　（歩程約 5 時間）

〔交通〕　新宿駅 7:30～～中央線特急あずさ 51 号～～塩山駅 8:52
新宿駅 6:22～中央線特快～7:05 高尾 7:26～中央本線普通～～塩山駅 8:46
マイカーでお越しいただける方はお申込みの際その旨ご連絡ください。

〔温泉〕　下山後、温泉に立ち寄る予定です。「牧の湯」「笛吹の湯」「はやぶさ温泉」のいずれか。

〔参加費〕　500 円（写真代等）

〔持ち物〕　昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物

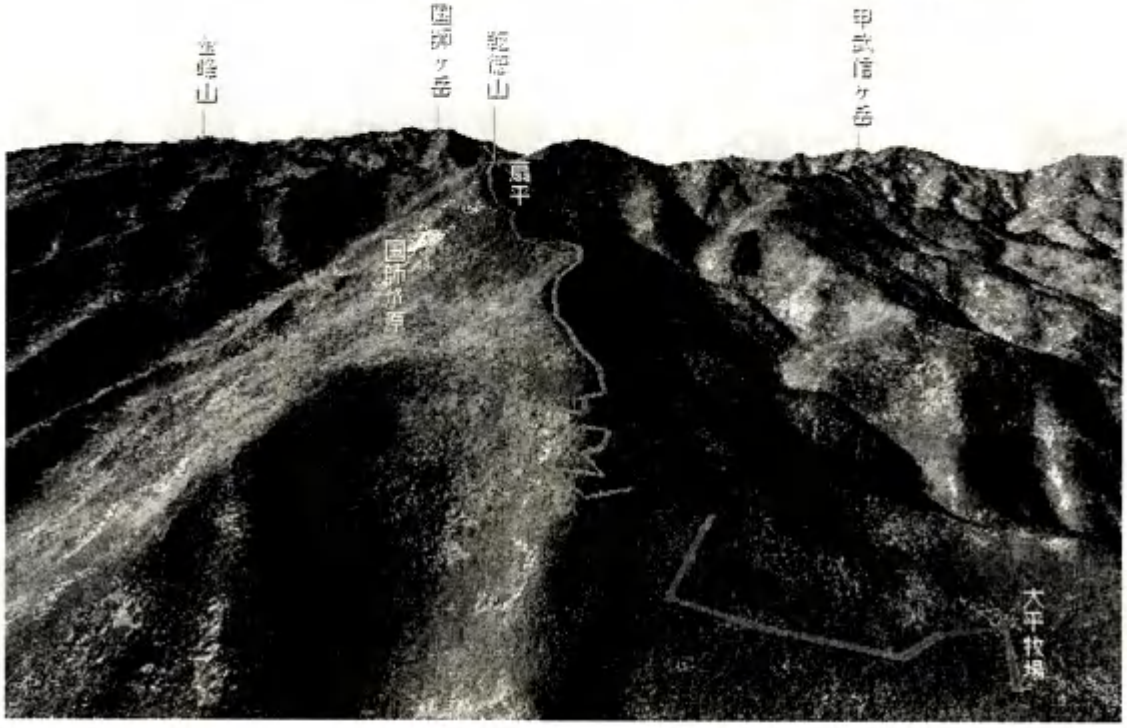
〔申込み〕　参加ご希望の方は8月末日までに下記のいずれかにご連絡ください。

小野 恵美子（34期）　　電話　042－335－7251

メール　emiko150@nifty.com

小浜 一好（17期・第8回OB山行幹事）

メール　kohamak@dream.com



ルート概念図（カシミール３Ｄを利用）

■ 苗名小屋屋根張替プロジェクトについて（募金御礼と進捗報告）

OB小屋委員長　　後藤誠史（39期）

文責　同副委員長　伊藤明広（31期）

1. 募金御礼

この度は、当OB会の今年度最大の事業であります「苗名小屋屋根張替え」の為の特別寄付に多数のご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。お蔭様で160名以上の方々から200万円を越える多額の寄付をお寄せいただきました。皆様方の御芳志に心より感謝申し上げます。

また、お寄せいただいた寄付総額は屋根張替発注金額を大きく上回っております。この分につきましては、今後の苗名小屋保守、修繕の費用に充てさせていただきたいと存じますので併せてご了承願います。

尚、寄付の概要は下記の通りとなります。

・寄付いただいた人数 …… 163名

・寄付総額 …… 2,030,000円

2. プロジェクト進捗報告

(1) これまでの経緯

① 2003年度OB総会にて、苗名小屋屋根張替えの必要性（建設以来30年間全面張替え無し、雨漏りが発生する箇所有り放置することは好ましくない）につき付議し、『苗名小屋屋根張替え事業実施に関しては特別寄付募集を含め、役員会及びOB小屋委員会に一任する』ことの承認を受けた。

② 2003年度第3回役員会（3月15日）にて、各小屋委員及び関係各位による事前調査結果を報告、当事業現地準備作業着手の承認を得る。実務は鈴木（14期）・小口（同）現地小屋委員が中心となって行うこととした。

③ 本年3月中旬より、参考見積依頼と現地確認の実施。主な要点は以下の通り。

1) 葺き方　：冬季の落雪し易さを考慮し、現行の棒葺きから横葺きに変更する必要有。

2) 屋根の色：環境省の指導に基づき、現行の赤色から焦げ茶色（または同等色）に変更する必要有。

3) 工事届出：国立公園内の為、役所への工事届出が必要か？→現行の自然保護規制施行前の建築物であり、屋根葺き替え程度であれば届出の必要なし。

4) 屋根材　：鳥井氏（21期）の提案・協力によりチタン材が廉価に入手できる可能性が出てきたため、チタン材（京大ヒュッテ建替え時に採用）とカラー鋼鈑（フッ素樹脂加工）の何れかにするか検討。結果、扱いの困難さから施工業者が限定されてしまうことや予算上の都合等によりチタン案は諦め、カラー鋼鈑を選択。フッ素樹脂加工である為に10年間の塗装し直し不要で、また表面の潤滑性の良さから落雪し易すい等々のメリットを期待できる。

5) 見積照会先

・中電産業・・・・地元中堅ゼネコン、苗名小屋出窓屋根張替え・京大ヒュッテ建替え施工業者

・和信建設・・・・地元業者、苗名小屋建設元請業者

・青柳清次郎氏・・五八木（岡田悟氏）の知人、地元個人業者　→　諸事情有り、見積辞退

・竹内建築板金・・五八木（岡田悟氏）紹介の地元業者、苗名小屋建設下請業者

・山崎建築・・・・五八木（岡田悟氏）紹介の地元業者、苗名小屋建設下請業者

④ 参考見積取得と技術要件の詰が完了したところで、第5回役員会（6月1日）にて鈴木現地小屋委員より結果報告、最終業者選定作業に入ることの承認を得る。価格交渉役を伊藤OB小屋副委員長（31期）とし、以下の条件を要点として業者選定を行った。

1) 瑕疵担保期間は工事完了後10年間。

2) トタンを剥がしてみないと判らない屋根野地板修理代等、見積未織り込み費用の確認。

結果は別表の通り。価格面での足切りにより最終選定対象に残った中電産業、竹内建築板金の2社に対して鈴木・伊藤両名にてヒアリング（7月23日）を行った。

⑤ ヒアリング結果をもって第6回役員会（8月3日）に付議。仕様や金額面では甲乙付けがたかったものの、最終的には実績と安定性の面から発注業者を中電産業とし発注前に再度価格交渉を行う条件で承認を得た。これに基づき最終価格交渉を行った結果、消費税込み 140万円で決着、8月5日付けＹＷＶ米屋部長名にて発注手続き完了。

(2) 今後の予定

① お盆明けに最終工期確認(9月1日工事開始予定、最長でも10月10日迄には完成予定)。

② 9月以降、中間・完成立会い検査、完成報告。翌月末代金支払。

③ 11月OB総会、及び会報No.25にて当プロジェクト最終報告。

別表　　（単位：円／消費税込み）

	中電産業	竹内建築	山崎建築	和信建設	青柳氏
参考見積	1,575,000	1,506,750	1,547,112	1,732,500	辞退
正式見積	1,506,750	1,506,750	1,686,300	辞退	-
ヒアリング時	1,417,500	1,407,966	-	-	-
最終金額	1,400,000	-	-	-	-

註)ヒアリング時の金額で、竹内建築板金のものは中電産業と前提を揃えた上での看做し金額。

■ Ｒ２００３のお知らせ

OB小屋副委員長　石川 真（41期）

来る10月12･13日、恒例となりましたR（リフレッシュ）2003を開催いたします。皆様もご存知とは思いますが、今年は苗名小屋の屋根が改修されます。「屋根が綺麗になるなら修繕なんてやらなくったっていいんじゃん！」などとお思いになられるでしょうが、それは間違いです。

毎年必要な作業・冬支度・小屋の将来のための作業等、現役たちや一部の有志だけでは人手が足りないことだらけです。モチロン「作業なんて疲れるし・・・」という方は皆のバックアップをするなどの手もあります（例えば食事の準備・車を出す・飲み会を盛り上げる）。小屋の維持のためにも必要な集まりではありますが、それ以上に世代を超えた交わりに、R200Xシリーズの意義があるのではないでしょうか？

参加できるという方は、小屋委員に直接連絡をとるか、MLなどでお知らせください。

今年も盛大に行われる様、皆様の参加をお待ちしております！

お問合せ先：石川 真（41期、maco1023@hotmail.com）

＊＊　Ｒ２００２（昨年９月）のスナップ写真　＊＊

バーベキュー

薪作り

■ 期別便り

■ 23期便り

武藤　秀二（23期）

21期の横溝さんから、夜自宅に電話があった。『武藤さ、23期の紹介文お願いしたいんだけど？』すでにワンゲル卒業から20年も経過（嘘みたいです）しているが、このへんの上下関係というのは、身に染みついていて、即断で引き受けてしまった。

ところが、困った。実は我らの世代、気づいてみれば、典型的な中年探偵団であり、家庭や仕事、はたまた愛人（？）で手一杯。同期との連絡も年賀状でのやりとりか、一部での飲みニケーション程度なのであります。その飲み会でも、出る話題は、『仕事、家庭、仲間の近況、最近何やってんの？マイブームは？燃えてる？あっ、鬱憤溜まっているね、吐き出しなよ！皆で集まって山でも行くか？無理だよな。』ってな具合。

そこで俺達が現役のころを思い出すと、……

下宿代は1～2万円程度、バイトで5千円も稼ぐと皆で飲めました。合宿は当然キスリングで、パーワン時のアタックも、持っているやつに借りまくっていました。そして引退時の贈呈品が、初めてのドームテントだったと憶えています。1年の始めに部会を弘明寺でやったのが最後で、それ以後はすべて常盤台での活動でした。

23期は総勢14名、知っている限りの近況を書き下してみましょう。

丸茂はゴルフ＆山行を比較的きちんと実施。木村は娘も大きくなり、モーニング娘。を見てニヤニヤしているともはや犯罪の域です。吉田剛は良きマイホームパパと企業戦士の狭間で揺れていて、吉田豊（旧姓雑田）は双子のパパで、ＨＰも開設。スペイン狂いは相変わらず？仙名所長は、時に怖いヤーさん相手に、保険をジャジーしています。大津山は娘2人がかわいくてしかたがない様子。ポッピ加藤と根岸、昨シーズンの山小屋雪降ろしご苦労様でした。そうそうポッピには下関でふぐをたらふく食わせてもらいました。2人とも金がうなっています。伊藤はヘルメットをかぶったドクターになり、高岡はどこにいる～！荒井君元気？高山先生の動向ご存じの方は、番組まで御一報を！てな具合です（あっ、いけない。中戸を忘れていた。元気なはずです。たぶん）。

そういう自分はというと、卒業後はカヌー、焚き火、そして山スキー三昧の時期を経て、現

在は人生のワンダリングに大忙し。これから山やったら、典型的な『帰ってきた中高年登山者』になり、新練 2 次以来の大バテ必至でしょう。20～26 期の皆さん！我々立派な中年です。山に戻るのなら、きちんとトレーニングしてから行くんですよ！

■33 期便り　　藤井 謙一郎（33 期）

同期便りの執筆依頼を受けましたが、折角なので今までと少し趣向を変え、文藝春秋の"同級生交歓"の体裁で書かせていただきます。

～～～

33 期は平成元年に入部しました。当時はバブル絶頂期。国大もテニスサークル全盛で「サークルは楽しくてなんぼ」の時代でした。そんな中、3Kの典型であるワンゲルに迷わず入部したひねくれ者が約 10 名いました。

●木村堅一君の鋼のような正論に立ち向かえる者は皆無。果たして主将を務めることとなります。世間はバブルでも、彼は食うに事欠く毎日。山行後は通常体重が落ちるものですが、彼にとっての山行は「3 食腹いっぱい食える健康的な日々」。下山後は体重が増えていました。卒業後は広島大学でドクターとなり、愛妻の葉子さん、愛息の穂高ちゃんと沖縄市に住み、地元の大学で教鞭をとっています。彼の結婚式は親族限りで挙げられました（ワンゲルには事後報告のつもりだった）。しかし、我々は地道な諜報活動によって日時・会場を特定し、宮島の厳島神社に全国から集結。観光客と共に彼の厳粛な結婚式を見物していた我々に気づいた瞬間、彼が浮かべた驚愕の表情は傑作でした。

●福島弘之君は、入部当初はモヤシのような男でした。浪人生活でやせ衰えた色白の彼が部室の扉を開いた時、先輩方はいかに入部を断ろうかと逡巡したことでしょう。案の定初めてのトレーニングで彼は倒れ、保健管理センターに担ぎこまれました。「何でワンゲルなんか入ったのよ！」と保健のおばさんに叱られたのがよほど応えたらしく、"死に神"と形容された彼は、2 年後には副将を務める立派な山男に成長しました。今ではモヤシというより大根。恰幅のよさでは同期 1 番。出光に入社した彼は当初札幌勤務を希望しますが、津軽海峡を越えられず青森赴任。その後は大阪→広島とどんどん南下する一方です。

●鈴木秀治君は、山では赤いスプーンを四六時中くわえており、陰で"ペチャ"と呼ばれていました。そんな彼も体力と大人っぽさを兼ね備えており、2 年時の合同執行部では副将を務めました。卒業後は川崎の小学校の先生となり、ＰＴＡのお母さま方に大人気（本人談）。同期の中で最初に結婚するのは鈴木、という予想通り、あっという間に他校の先生と結婚し、早くも二児の父。お酒に強いのか、危うきに近寄らないのか、酔った彼の姿を見た者は皆無。彼の結婚が決まった時、同期で集まって「祝い事なら紅白だ」と赤ワイン白ワインを交互に何本も注文。しかし飲んだのは周りばかり。軽やかに帰っていく鈴木君の後には、歌舞伎町を走り回る藤井、山手線でひっくり返る横井君など、いつものようにボロ雑巾が数枚残されていました。

●河上力哉君は茨城県出身のため、先輩には"イバ"と呼ばれていました。一言で表現するならば、「あついやつ」。語りも熱い、筆圧も厚い。周りも暑い。部室の「友垣」や小屋日誌における彼の文章の濃さは一見に値します。数行で終わることはありません。鉛筆で書いたその文字は、数枚後ろにもくっきりと跡を残すほど。現在は静岡の三島で高校教師をしています。マラソンに熱中し学生時代と比較しても相当痩せたらしい。

●大西浩二君は、2 年生時に入部したため同期でありながら兄貴的存在。見るからに勉強が出来る彼は"大木凡人"そっくりですが、体力と酒は同期最強。紹興酒や日本酒をコップのふちまで注ぎ、「ま、いいから飲め」と太い眼鏡の奥で目を光らせる彼の酒は決して断れません。目をつけられたら最後。仙台で某福島君は地下鉄の車庫に入るまで目覚めず、銀座で某弘之君は当日買ったばかりのフリース（値札付）を着て「さすがモンベル、暑い暑い」とぶつくさ言いながら晴海通りを歩き回ってました。一足先に卒業した彼は、大蔵省関東財務局に入局し、仙台、京都、霞ヶ関と転勤を重ねました。しかし、98 年のＧＷに他界。命日であるＧＷの墓参りは 33 期恒例行事となっています。

●横井英記君は、タコ並みに体が柔らかいので怪我知らず。栄養短大を受験しようとして「男子禁制」と断られ、国大経営学部に入学しました。料理や家事が得意な男で、山の生活においても重宝されます。家庭的な彼も、一旦ハンドルを握ると野性的。今まで無事故なのが不思議です。酒を飲むとこれまた大変。正体不明になって福島君の実家に泊まった翌朝、初対面の弟さんに「典型的な酔っ払いですね」と面罵されました。卒業後は福島君と同じ出光に入社、名古屋→大阪勤務を経て、現在は念願の東京勤務。彼は藤井の結婚に焦りを感じて「2004 年に結婚する」と高らかに宣言しました。まだ見ぬ相手を探し、果敢に合コンに突撃しているという噂も（打率は非公開）。彼の緻密な計画は「出会う」→「交際開始」→「半年後に結婚」。まだまだ十分時間の余裕はあります。

●合掌顕君は著名なシャンソン歌手の息子。それゆえ比類なき歌唱力を誇ります。高校時代まで登山経験者であったこともあり、体力、知識ともに秀でていました。共装の"チョンボ"は誰もがやらかすほろ苦い経験ですが（米を忘れた同期も）、彼のチョンボの話は聞いたことがありません。生活費を捻出するため、2 日働いては 24 時間寝るという無茶なサイクルで働く彼の生き様は、文字通り牛馬（ギューバー）と形容されていました。現在は岐阜大学の研究者として、京都で研究にいそしむ毎日です。

●原倫江（みちえ）さんは、新潟県の東頸城郡浦川原村という、妙高に近い場所の出身。お父様は村長さん。選挙ではウグイス嬢を務めたそうです。教育学部の養護科出身で、純粋を絵に描いたような部員でした。鈴木君に"アンパンマンそっくり"と言われて憤慨したこともありました。そんな彼女は白熱した議論を「どうだっていいじゃん」の一言で収束させるのが得意技。卒業後は京都の市民団体に就職。その後結婚して今年 6 月にめでたく第一子を出産。昨年に夫婦で南ア南部に登った際は、百間洞のテン場で疲労困憊バテバテの現役部員達（志賀主将ご一行）と出会ったそうです。

●赤羽直雄君は、自衛隊→大検→工学部という異色の経歴でワンゲルに入部しました。自衛隊仕込みの体力はさすがなものがあり、初の夏合宿（南ア）でも元気一杯でした。夏合宿後に体調を崩して退部しましたが、その後も同期とのコミュニケーションをとっていました。卒業後は新潟市の実家に戻り、自費出版やミニコミ紙発行をしていましたが、99 年 8 月に他界。今月末には分骨された京都で追悼の会を催す予定です。

●藤井謙一郎は、ボーイスカウトをやっていたこともあり、入学後はワンゲルに真っ先に入部。比較的体力があって背丈があったせいか、それとも単にいびられていただけなのか、持たされる装備は嵩張って重いものばかり。お酒を飲んでいる場所が 2 階だと、窓を開けて飛び降りようとする習癖があったとの噂。卒業後は KDD(現 KDDI)に入社。昨秋会社の上司と黒部の東沢を遡行し懐かしの三俣蓮華や双六を歩いて以来、山とは若干疎遠です。そんな藤井もめでたく結婚。福島君に披露宴のスピーチを依頼したら、徹底的にこき下ろして下さいました。会場はバカ受けでしたが、いつか仕返ししたい。現在は罪滅ぼしに(?) OB 会幹事長をやって

います。

～～～

ほとんど山の話が出てきませんが、現役当時はパワフルにあちこち登りました。卒業後は全国に散らばったので、一緒に登山というのは難しいですが、広島、京都、沖縄、青森と、全国で飲み会を開催しています。しかし、帰りの新幹線に乗った時点で110円しかなく、ジュースも買えなかった男(福島)、広島から岐阜の職場に帰るのにそもそも小銭しかなかった男（合掌）など、どこでホームレスになってもおかしくない連中が数名いるので、心配です。33期も振り返ると出会いから15年目。15年後、30年後も日本のどこかで、若くして亡くなった大西、赤羽の両名を肴に飲んでいることでしょう。

以上

■ 雲上のプロジェクトX（自由投稿）

親跡 冬樹（34期）

世界でも有数の登山人口を抱えるとされる日本。しかしながら今、山の“オーバーユース（酷使）”が問題化しています。

１９９０年代以降、第二次大戦後二度目の登山ブームにわくと言われる日本。北ア、南アを初めとする山域に押し寄せる登山者の列。登山者の増加は、排泄されるし尿の量も飛躍的に増大させました。山の中では便意を催さないという向きもあるでしょうが。

人里離れた山小屋では、し尿を穴に埋めたり、谷のがれ場に流したりして処理するのが常でした。しかし高山植物が枯れたり、沢水からは大腸菌が検出されるといった現象が報告され、し尿の垂れ流しとの関連が疑われるようになりました。このままでは日本の山は登山者の排泄物によって滅びると囁かれている。これが“オーバーユース”問題の骨子です。

さて、環境問題に対しては「環境保全」と「環境保護」のふたつの立場があります。

「環境保全」といった場合、自然を大事にしつつ利用していくという立場を指します。一方「環境保護」は、極論すれば自然の利用を禁ずるという立場です。山で云えば、入山規制と云うことになりましょうか。現在北ア、南ア等の山小屋では「環境保全」の立場に立ったし尿処理問題の解決が模索されています。

高所にある山小屋ではし尿を運び出すことは困難。よって、現地でし尿を分解処理するトイレが設置されるようになってきました。主流となっているのが「合併浄化槽」。シリンダー状の装置にトイレや台所からの汚水を流し込み、微生物を使って浄化するというもの。

浄化槽も機械ですから故障が心配ですが、山小屋の経営者自らが「浄化槽管理士」の資格を取得、簡単なメンテナンスにあたっている山小屋もあるとか。

このほかにもさまざまな「自然に優しい」トイレが開発されています。一例として「肥だめ」を進化させたトイレが挙げられるでしょう。排泄物をコンクリート製の槽へと送り込み、内部の細菌によって分解。浄化した汚水を山小屋の周りの土へ還すというもの。メンテナンスフリーが謳い文句です。

しかしこの方式、実際には手間いらずという訳にはいかないとも聞きます。高山の低温の条件下では微生物によるし尿の分解が進まず、し尿を分解する酵素を週一回入れている所もある

とか。

新式トイレに運用面の悩みがつきまとうためか、山小屋の関係者からはこんな声も洩れてきます。

“し尿が高山植物に影響を与えると云うが、例えばお化けハイマツが生えた例など見たことがない。何百万円もかけて高価なトイレを整備する必要が本当にあるのか。昔ながらの穴に埋めるやり方でもよいのではないか。沢水から大腸菌が検出されて問題になっているが、トイレより台所、風呂からの雑排水の方が、大腸菌の源ではないか”

こうした声を“環境保全に対する意識が低い”と切って捨てるのは容易い。しかし高価なトイレが、山小屋経営上負担と感じられる局面もあることでしょう。

トイレの整備に留まらず、登山者個々人に負担を求める動きも出て参りました。登山用品店で販売されている「携帯トイレ」がそれです。紙おむつと同等の機能をもった「携帯トイレ」の袋に小便、大便を上手にシュートして固めるというもの。登山者に自分の排泄物は下界に持ち帰ってもらうよう「理解と協力を求める」とされています。この方式、不評を禁じ得ないようですが。

登山ブームとやらが沈静化し、自然環境への負担が減って問題が解決するか。それとも、行政が環境保護的な政策に舵を切り、入山規制が日本の山域を覆うか。“キジ”などと婉曲に表現されてきた人の排泄物が、登山者の辿るべきルートを決める日を我々、この目で目撃することとなるのかも知れません。

■ ２００４年度会費納入のお願い

会計幹事　吉野 大次郎（2 期）

会報 24 号に同封いたしました払込取扱票は 2004 年度年会費、前納会費、総会参加費、寄付等をお振込みいただく用紙です。

取扱いは郵便局です。機械は夜間、土日も取り扱っております。お早目にお振込み下さい。

年　会　費：2,000 円（2003 年 10 月から 2004 年 9 月までの 2004 年度の会費）

（宛名ラベルに「今年度会費は納入済」という表示がある人は今年度(2004 年度)の会費は納入不要です）

前 納 会 費：10,000 円（2004 年度～2009 年度の 6 年間の年会費前納分）

総 会 参 加 費：10,000 円（総会参加者のみ）

寄　付　金：(小屋、一般)どちらかに○をつけて

最新名簿代金：　500 円 (郵送希望者のみ)

なお、払込取扱票を紛失した場合は、郵便局で用紙を貰い、下記口座番号と加入者名を記入してお振込みください。

口座番号：00290－3－2419
加入者名：横浜国立大学ワンダーフォーゲルＯＢ会

羅臼岳聳える

YWVOB 会会報第 24 号
発　　行:横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発　行　日:2003 年 8 月 23 日
発行責任者:嘉納 秀明(1)
編集責任者:編集委員長 田村 顕洋(34)
編 集 担 当:編集副委員長 松本 弘道(7)、同 山崎 美穂(39)

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。